松浦の魅力を全国に伝えたい

温かな人情、豊富な海と山の幸、穏やかな生活空間…。松浦の魅力をたくさんの人に伝えようと、東北育ちの一人の青年が頑張っています。

Interview 髙橋　識弘（のりひろ）さん

本市の観光および物産振興の核となる組織として、昨年４月に『一般社団法人まつうら観光物産協会』が誕生しました。

この協会の事務局長を務めているのが髙橋識弘さんです。髙橋さんは、福島県南相馬市の出身。東日本大震災という大きな苦難を経験しながらも、明るく前向きにチャレンジを続ける髙橋さんにお話を聞いてみました。

CLOSE UP！ この人に

まつうら キラリ 輝人

Q 観光の仕事を始めたのは？

A 学生時代は学費や生活費のため、飲食店のトレーニングスタッフ（新人育成）として働いたり、2年ほど休学して飲食店の正社員となり店長職として店舗経営の仕事も経験しました。大学を卒業後は、地元からの誘いもあって南相馬市の観光協会で働くようになりました。当時25歳でしたが、事務局長として仕事をさせていただき、8年間にわたり観光業界の仕組みや商品取引のノウハウを学ぶことができました。

Q 松浦での生活を選んだきっかけは？

A 東日本大震災後の1年余りは、被災者支援活動を行ってきました。震災後の状況下では観光産業は成り立たたず、私が所属していた観光団体も当年2月末日をもって休眠団体となりました。転職することとなった私は、その日の夜にインターネットで〝まつうら観光物産協会の事務局長募集〟の記事を見付けました。この日がたまたま募集締切りの前日だったので、このタイミングで募集記事を発見できたことに松浦との〝ご縁〟を強く感じています。

これまでも全国各地を回ってきたので、松浦で生活することに不安はありませんでした。地域の皆さんは優しくて温かく、いつも親切に接していただいてます。

Q 今後チャレンジしてみたいことは？

A 南相馬市でも観光協会の一般社団法人化や友人たちと会社を設立した経験もあり、企業経営に強い関心を持っています。地域の産業構造の隙間を埋め、産業全体を強固なものにしていくには、団体の活動では限界があり、どうしても企業の力が必要となります。いつか地域の皆さんと会社をつくって地域産業の発展の一端を担えるような活動ができたらと思っています。

◎ PROFILE

髙橋識弘さん（志佐・高野定促）

チャレンジ精神旺盛な 34 歳。趣味は国内・海外を問わず旅行に出掛けること。

長崎県体育協会体育功労者表彰

竹本 久敏（ひさとし）さん（調川・上免、66）

昭和42年にソフトボール競技を始められて以来、40年以上の長きにわたり、ソフトボール競技の普及と発展に努められました。

特に、ソフトボールのウインドミル投法が採用された際には、いち早くその技術を習得し、市内はもちろんのこと県内においても広く普及に尽力されました。

また、長崎県ソフトボール協会の評議員、会計監査を長年務められたほか、松浦市ソフトボール協会においては平成2、3年に競技力向上委員長を歴任し、平成4年から現在に至るまで同協会の事務局長を務められるなど、市・県ソフトボール協会の運営に大きく貢献されました。

井元 八郎（はちろう）さん（御厨・池田、76）

昭和47年に市内の陸上競技団体である松浦市壮友会を結成し、同会の会員として陸上競技の普及と発展に努められました。

また、昭和54年には松浦市陸上競技協会を設立し、その中心的な存在として活躍され、同協会の設立当初から現在に至るまで理事として協会運営に尽力されています。

さらには、松浦市ロードレース大会実行委員会委員をはじめ、市内および県北地域での各陸上競技大会においても競技役員として積極的に参画されるなど、陸上競技を通して地域のスポーツ振興に大きく貢献されました。

志佐小ミニバスケットボールクラブが九州大会で準優勝

第33回全九州ミニバスケットボール選手権大会が1月12～14日、佐賀県総合体育館など3会場で開催され、長崎県代表として出場した志佐小学校ミニバスケットボールクラブ（黒川徳一郎監督、部員24人）が、見事！準優勝の成績を収めました。

九州各県から代表校2チームが出場し、計16チームのトーナメント戦によって争われる九州大会。志佐小は初戦の金池（大分2位）と2回戦の小林RF（宮崎1位）を危なげない試合運びで退け準決勝へと駒を進めました。

準決勝では別の大会で何度か顔を合わせたことのある志免南WC（福岡1位）と対戦。序盤から思わぬ点差を付けられる苦しい展開となり、後半に入ってもなかなか点差が縮まらず、我慢の試合展開が続きました。残り時間も少なくなり、相手が守りを固めて逃げ切りを図ろうとしたせいか、志佐小の攻撃のリズムも次第に良くなり、じりじりと点差がつまりはじめました。そして1点差で迎えた残り2秒…。牟田君の放ったシュートがリングに吸い込まれると、間もなく試合終了を告げるブザーが鳴り響き、26対25の劇的な大逆転勝利で決勝に進みました。

決勝戦では、古蔵小（沖縄1位）と対戦。技術はもちろんのこと体格にも恵まれたこのチームは、決勝戦までの全試合を20点差以上の大差による圧倒的な強さで勝ち進んできました。

志佐小も準決勝の勢いを保ちつつ決勝に挑みました。しかし、試合開始まもなく志佐小に主力選手が負傷退場するという思わぬアクシデントが発生。序盤から苦しい試合展開となりましたが、持ち前の粘り強さで懸命にくいさがり、善戦したものの惜しくも敗れ準優勝という結果に終わりました。

次はいよいよ全国大会。3月28～30日に国立代々木競技場体育館（東京都）で開催される夢の大舞台に志佐小ミニバスケットボールクラブが挑戦します。